

令和6年度第1回柴田町新図書館建設検討委員会 議事概要

日時：2024/06/28 14:00～16:00

場所：保健センター4階 多目的ホール

出席者：平岡 善浩、大槻 浩子、熊谷 一彦、男澤 勝由、金城 幸子、
羽賀 幸子、添田 椋、田中 亮、佐藤 祥多、玉渕 博之（敬称略）

（町長あいさつ）

（委嘱状交付）

1 開会

2 出席者自己紹介

各委員より自己紹介

3 委員長・副委員長選出

互選により委員長に平岡委員長委員、副委員長に大槻浩子委員を選出

4 議事

報告事項

1) 都市再生整備計画・都市構造再編集中支援事業の進捗状況について（説明：都市建設課）

○平岡委員長

ご説明ありがとうございました。では今ご説明いただきました内容につきまして、ご意見ですとか、ご質問ありましたらお願いいたします。

私のほうから1つ確認です。全体の進捗で2割程度とのことでしたが、例えば、事業の②の、町道の整備と、あと③の公園のところ、あと⑥の郷土館の再整備事業あたりが、割と図書館と直接的に関わる場所だと思いますが、具体的には今どの辺ぐらいまで進んでいるとかっていうのを教えていただければと思います。

○佐藤都市建設課長

資料のピンク色で着色している部分、②の交通空間道路施設それから公園ということで、現在の進捗になりますけども、まず道路設計公園の設計の方は昨年度に、設計の方を終えまして、今年度工事に着手します。現在設計の方を進めておりまして、工事としましては、道路の方が、今年度と来年度、あとは図書館の周辺を、最終年度図書館の工事に合わせて、整備を行うというような計画でおります。

公園につきましては、あそこの砂利敷きの駐車場なのですが、半分が借地として借りていた土地でしたので、昨年度にその部分の用地買収を行いました。

用地協力いただきましたので、今年度から一部工事の方に着手して、今年度と来年度で公園の整備を終わらせる予定でおります。

そして⑥の地域創造支援事業としばたの郷土館の再整備事業とありますが、こちらについては、今回の社会実験である程度利用の方向性を決めまして、今年度中に設計の方に着手したいというふうに考えております。

図書館の完成の令和9年まで、それぞれ、文化伝承館であったり産業展示館であったりそういった部分の改修を随時、進めていきたいなという計画でおります。

○平岡委員長

今のお話ですと、道路の方はもう設計終了で、今年度ぐらいには大体でき上がるのですね。公園の方にもパースで一番よく見えているところですが、こちらも設計を今進めていると。それで、来年度中ぐらいにはもう完成という見込みです。

○佐藤都市建設課長

設計の方は、道路と公園の方、昨年度中に終わっておりまして、今年度から道路公園ともに着手という流れになっております。

○平岡委員長

⑥の柴田の郷土館のほうは今年度設計で工事の方も着手するという事によろしいですか。

○佐藤都市建設課長

⑥の工事の方は来年度以降に着手してまいります。

○平岡委員長

わかりました。それにしても図書館が完成するまでには他のところは完成しているって話ですかね。

○佐藤都市建設課長

そうですね。ただ図書館の工事は大きな工事になりますので、その周辺に面している道路部分だけは図書館の外構の工事とあわせて、着工したいなというふうに考えております。

○平岡委員長

ちょっとその辺の図書館の進捗と、周りの方の進捗が、どういうふうに影響するのか気になります。他の皆様方からいかがでしょうか。

特に無いようですので、先の報告事項に進ませてください、後程何かお気づきの点があれば、お願いいたします。

2) 柴田町新図書館基本構想の概要版について（説明：柴田町図書館 大宮副参事）

○平岡委員長

では、委員の皆様方から何かご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。昨年からの委員の皆様方はいろいろお話をされているのですが、熊谷委員はご覧になってなにかございますか。

○熊谷委員

この概要版を見させていただいて、蔵書数の少なさ、スペースの確保の難しさがあると思います。私は多賀城に住んでおりまして、多賀城市の図書館や隣の塩竈市にエस्पという施設に行ったりしているのですが、行きやすいというか、ふらっと行っても何か楽しみがあるような、そういった構造だったらすごくいいのかなあと思ったり、あとは学校現場の立場だとよく町内の小学校とか中学校の作品っていうのをもう一度展示できるスペースというのが、なかなかない市町村が多いのですけれども、もしそういったところも、この中にあったら、もっと子どもや保護者の足が向かうのかと思いました。

○羽賀委員

まだ、ちょっと勉強不足なところもありますので、わからないのですが、私は、いろんな図書館とかそういうところも利用させていただいていますが、お子さん連れで利用されている方もたくさんいらっしゃるの、子供、親子で利用しやすいような図書館ができたらいいなと思っています。子供たちが本当に楽しんで利用できる図書館ができたらいいなと思っています。

○添田委員

前もって資料を拝見していましたが、改めて説明を聞いて、思っていたよりも、具体的な想像ができました。大学の友達とかに聞いたときに、今の図書館をあまり利用しない理由としても出てきたのが、距離がちょっと遠い、駅から通いにくいという理由があったので、電車を使って学校に来ている学生が、柴田町図書館を利用したくなるような、何かあるといいと思いました

○平岡委員長

ちなみに仙台大学の学生さんたちは、船岡駅からは、大学まではバスとか自転車とかで通学していますか。

○添田委員

歩きと自転車の人が多いです。

○平岡委員長

私の方から1点です。スケジュールのところなのですが、工期が今この設定にはなっているのですが、例えば伸びちゃったとか、入札が不調になるだとか、避けたいところなのですが、町としてはどのようにお考えですか。

○事務局

設計の方はすでに委託しており、あまり心配していないのですが、工事については、入札でもって決定して、1年2ヶ月ぐらいかけて工事しなくてはいけないと見込んでスケジュールリングしています。全国で公共施設建設について工事が不調になっているケースが出てきているというところで、心配はあるのですが、どうしても補助金を使う都合もありまして、去年はプロポーザルもタイトなスケジュールでさせていただいたのですが、町としては、この補助金を使って、必ず間に合わせていきたいなというところではあります。

○山崎アドバイザー

工事が不調になっているケースの特徴は、建物が複雑なものになった結果、結局、入札に参加する業者が1社とか、ゼロだったということがあります。最近では耐震や構造の問題があり、工期が伸びているケースがありますので、十分に可能性があるのです。ですので、リスク管理の方向性としては、シンプルな建物を目指していくのがいいと思います。

他の自治体の例だと、設計に1億円以上かかったにもかかわらず建築一步手前まで行って建設を断念している例などがあります。今厳しい状況だということをあまり強く言ってもしょうがないことなのですが、ちょっと心に留めながら進めていただければありがたいなと思います。

〈休憩〉

協議事項

1) 新図書館基本計画の策定について（説明：株式会社山下設計東北支社（設計業務委託業者））

○平岡委員長

ご説明ありがとうございました。今ですね、基本計画の策定につきまして全体の基本計画スケジュールと、今進めていらっしゃるワークショップについてご説明をいただきました。ちなみに委員の皆様方では、ワークショップに参加されている方とかいらっしゃいますか。

3人参加されているようです。わかりました。ありがとうございます。

とにかくお気づきの点のところからご自由に、ご意見ですとか、ご質問いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○佐藤委員

基本計画スケジュールの、町民ニーズの把握というところで2つあって、まちづくり活動への参加を促すためであるのですが、具体的にどういう意味なのか知りたいです。

また、ワークショップ4回やって、まちづくり活動へ促すってということになると思うのですが、この4回やると、そのまちづくり活動に、どのような変化、参加している人たちがどのように変化するのか知りたいです。

○委託業者

この資料は基本計画開始時に作った資料であり、当初はプロポーザル時の資料等から図書館を核としたまちづくりがこのプロジェクトの核なのかなと思っていました。そういった意味でワークショップ等でも、まちづくりに関することを中心にして進めていった方がいいのかなと思いこのような表記としていました。

しかしその後町と協議を進める中で、これまでの経緯を踏まえると、まずは図書館そのものに関する町民の方々のご意見を吸い上げることが重要であることがわか

ってきたため、少し方針を変更して業務を進めております。

○佐藤委員

この委員会は、基本的には、ハード的な部分を検討するというふうな位置付けていいのですかね。

○事務局

ハード的な部分を、基本計画では、策定しなくてはいけないので、これからおそらく例えば、それこそ大きさ面積ですとか蔵書ですとか、どういう部屋が必要になるかということを決めていきます。

ある程度素案を今設計の方で作ってもらったのに対して、建設検討委員会の中で意見をいただいて、固めるという形になってくると思います。

○佐藤委員

ということは、このスケジュールの7番の図書館を核としたまちづくり方針っていう方が、ソフト的な要素ということになりますか。

○委託業者

5番の基本計画のコンセプトが図書館に関するソフトに関する内容で、こういった図書館を作るのか、こういった機能を置くのか、というような内容を考える必要があると考えています。そしてこれを踏まえて6番でハードに関する方針を設定することを考えています。

7番はもう少し範囲を広げたソフトの要素で、まちづくりを核とした図書館に関する内容をまとめることを考えています。今回の事業は図書館をつくるための事業ではなく、都市再生整備計画で設定されたエリア全体を良くするための事業であるため、これに図書館づくりとして貢献できるような内容を示す位置付けです。

○山崎アドバイザー

いいところをつかれています。おそらく今のお話は重要なことです。

私も多分、ずっと協働とか共創という言葉を使ってきて、それをないがしろにはできませんよね。ワークショップでは、ハード面よりはむしろその住民たちがどういった関わっていきけるかということに、主眼をおきたいのですよね。

だからそれがハードにも関係し、ソフトにも関係しています。これからワークショップの中でそういう意見をたくさん聞いて、住民が関係していきけるような意見を反映していくっていうことが必要になります

住民と一緒に何ができるか、まちづくりに対して何ができるか、どういうことを提言しているかということがあるので、まさしくこの4番は、まちづくり活動への参加を促していくということだと思います。だからそのために私たちも今、検討委員会もやっていますし、建物だけではないのですが、プロセスに参加していただくことによって、皆さんが住民として確かに関わっていく。一緒に伸びていくっていうことにしていかなければいけない。

○平岡委員長

機能とサービスの担い手ですかね。例えば、ここのところにシェアキッチンとい

うかキッチン置きたいっていうのは、機能の話だと思うのですが。それを使ってきた人たちにどういうサービスを提供するかっていうのは、サービスの話で、それがランチなのか、自分が作ったお菓子なのか、あるいはみんなで作るようなそういうふうな時間なのか。サービスの話って、それじゃ一体誰がやるのかってなるところにそこが誰も手が上がらないと、結局機能しないので、参加者たちにとっては、誰が担うかっていったところについても考えていただかなきゃいけないのですよね。

単に機能とサービスが欲しいっていうところだけじゃなくて、誰が担うのかというところは、こちらのワークショップのところでも、含まれているかと思しますので、そのこのところの議論を進めていければいいかなと思います。

○大槻副委員長

今までの話ってすごく大切なことだと思います。

実際に具体的な話になると、私はこのワークショップに参加させていただきました。ワークショップに参加していた女子高生が、参考書がある、図書館がいいっていう意見を出しました。そしたらすぐに図書館の蔵書として参考書はまずいです。書き込みだとか、なんかそういうことされちゃうので、蔵書としてはまずいっていうことを言われて、何か非常にね、かわいそうと私は思いました。

実際に問題集とか参考書って、自分のレベルに合う参考書は実際に開いてみて、役に立つ参考書だなということになります。参考書を買う前に、まず中身みたいという時に、本屋さんっていうものが地元にあります。それを図書館の蔵書にしろと言われればそれはまたそれでね、制約があってできないと思います。

そこで考えてみたのですが、図書館にリサイクルコーナーみたいなのを設けたらいかがでしょうかっていう提案なのですね。大学入試に合格しました、教員採用試験に合格しましたっていう方がいるのですが、その方が使った参考書とか問題集とか、もういらないですよね。それをもう寄付していただくのです。そして、次の年にそれをやる勉強したっていう人に、無料でもいいし、多少もらってもいいと思うのですが、そういうリサイクルって可能だと思うのです。なので、蔵書としてはまずいかもしれないけどリサイクルコーナーっていうものをつくれれば、そういう問題集でも参考書でも置くことができるし、それが欲しいという人は手に取ってみることもできるし、さらに買うかもらうかは、後で考えなくちゃいけないことであると思うけども、実際書き込みしたりしていいわけです。もう自分のものとしてね、図書館の蔵書じゃないのだから。というようなコーナーを作ったらどうなのかなっていうふうに思いました。

そしてさらに発展させて、絵本というものもありますよね。絵本は、幼児を対象にしたものと、小学校の低学年、高学年、中学生と全然違いますよね。絵本についても、リユースをしていけばいいと思います。柴田町では、赤ちゃんが誕生すると、ブックスタートで2冊プレゼントしていますが。それを絵本の交換会というものでリユースしていくことが可能だと思います。

○平岡委員長

田中さん今お話のあったようなことと違ってというのは、図書館的にはこういった感じになりますか。

○田中委員

まず問題集、いわゆる書き込みができるものをなぜ図書館が買わないかという、私は宮城県図書館のものですが、県民全員に行き渡らせなきゃいけないわけです。そうすると1人が書き込まれてしまうと、同じことがずっと続いてしまうのです。なので、各ワークシートであるとか、書き込みができるよっていう図書は、極力買わないようにします。今先生おっしゃったように、例えば問題集、そういうものをいわゆるリユースリサイクルできる場の提供ということは、図書館はできるかもしれませんが主体的にはできません。誰が集めて、誰が配布するのかっていうと、図書館はできないのです。

そうすると例えばボランティア団体の方が、事前にそういうのを集めて、図書館の場所を使わせてくださいとか、あるいは先ほどの公園の計画がありますが、公園が整備されたら、お祭りであるとかっていうのを企画されると思いますが、そのうちの1つの企画としておやりになるにはいいかもしれない。

宮城県図書館の場合は県の教育委員会ということもありまして、宮城県内の小中高校で使っている教科書全部、展示をしています。ただし、図書館の蔵書とはしておりません。なので、貸し出しはしてないです。館内でご覧くださいというようにしています。先週、先々週は、ちょうど高校の第1期考査が行われる時期で、土日すごかったですね。高校教育課と義務教育課から、毎年春に教科書持ってきてそこに置かれているのですが。自分の高校の教科書と見比べて自分の習熟度それで確かめるみたいなのでそういうこともあると、なかなかそれはそれで好評なのですが、今副委員長がおっしゃったようなことってというのは、図書館が主体的にはなかなか難しい。ただその分ボランティアがやってくれればありがたいかなと思います。

○平岡委員長

そのあたり、男澤さんや金城さんは、そういう関わり方をしていると思いますがいかがでしょうか。

○男澤 勝由

街中図書館とかをやられているところがいろいろあります。そういうところに、私はこういう参考書って言って集めて、公開するとか、もし私がやるのだったら昔の綺麗な雑誌があるので、子供たちも見せたいなど。そういう意味では私設文庫を開設して、それに対して図書館のほうで図書館推薦の場所ですよというステッカーを擁して、そういうのがあると、安心して公開ができるっていう、ボランティアと協働するようなそういう点もあるのかなと。

あとはいつも集会所のことを話しますが、集会所に本を持ち寄って、みんなで譲り合ってもいいですし、見せあうのもいいです。実はパブリックコメントに集会所のこと書いたのですが、区長さんに負担をかけられないっていう回答があったのですが、別に区長さんにやってもらいたいわけじゃないのですね。

この町では3ヶ所で子ども食堂をやっています、区長さんがやっているわけじゃないです。それぞれ別のグループでやっています。そういうグループが立ち上げを図書館で後押ししてもらえればなど、いうふうには思います。

○平岡委員長

今お話しにありましたが、ワークショップの中で、アイデアが出たときに、これ難しいですねってなったときに、いやこの人たちだったらやれるのではないかと、こういうやり方ってやれるのではないかって。そういうアイデアを出していただきたいですね。

○男澤委員

何か問題があったときに、答えを町が用意するのではなくて、問いかけていただきたいのですね、町民はいろんなアイデア持っている人もたくさんいるので。

○金城委員

今のお話はすごく興味深いお話で、副議長の大槻さんがおっしゃったように、柴田町で行っている、子供たちへの配布というか、ブックスタートの行き先っていうか、それがどんなふうになっているのかなっていうところもすごく気になる場所でもありました。

このところ、テレビとかそういうのを見ている、割と個性的な図書に関して関心がすごく高くて、本屋さんで一般的な本を購入するというよりも、個人個人が、すごくマニアックな本に対して関心を寄せるっていう動きは、今は割と高まっているのではないかなというところもあたりるので、そういう実験的なことも含めて、いろいろなことができる場を図書館側が提供していただけるというのはいいと思いました。図書館の本とかとはまた違う意味の非常に個人的なものをもし共有できるのだったら、こういうものをちょっと他の方と共有したいなっていう、その個人とパブリックの部分でのその繋がりができていくような仕組みも含めつつ、そういうハード面も含めつつ、そういう事業を見守る立場として図書館がなっただけだと非常に何か面白いことができるのではないかなと思いました。

○平岡委員長

今いただいているご意見は、ワークショップが4回ある中で、基本的には建築とか空間の話のワークショップなのですが、そのサービスの話とか、人の話とか、そういったところを見越しながらしながら議論を進めて欲しいということなのじゃないかなということですね。

実際参加されている皆さんとか町民のみなさんがそのネットワークとか、お知恵がこうある場合は結構あるかと思いますので、こういう場とか、ワークショップの場とかで出していただければということだと思います。

○玉淵委員

質問なのですが、最終的にその建物作って、今、設計の方からの提案が、こんな事業とかいうのもちょっと考えてみたいみたいなのところもありました。いずれそこがハードに、返ってくるってことになると思うのですが。建物自体は、さっき

言ったソフトと結びついていることは確かなので、どんなふうに支えていくのかっていうのは基本計画の中に、入るべきじゃないかなと思っています。

つまり、どれぐらいどういう人達がどんなふうになんが配置されていって支えていくのかという、これが持続可能であるかどうかというのは、予算のこととかいろんな課題が出てくるので、建物ができた後に新しく考えましようみたいなことではなくてずっと繋がっているのですね。そういったところがちょっと今のところ少し見えてないかなというところがあります。この辺りの考え方、進め方とかですけれども、何か参考になることがあったら教えていただければと思います。

ちなみに、今、何かそんな話をしたかっていうと、宮城県が作った建物なのでまずこホールって、その関係もあって、宮城県の文化審議委員をお願いされているのですけれども、すごい大きな建物作るのですが、そこに対して、こういう人を配置したいというところまで今言及されて、審議しています。いろいろ問題があると思っはいるのですけれども、柴田町の新図書館に関しても、ちょうど今建物建てようというところまできているので、この後、そういうところの話が出るのかなあとちょっと思っているのですけれど、そのあたりちょっと聞きたいなと思しました。

○事務局

先ほどからこんなことをやってみたいとか、こんな図書館がいいという意見が出ていますが、誰がそれを担うのかってことになってくると、具体的にそこまでまだ話はしていないところで、だから、例えばワークショップに来てくださった皆さんが、図書館でこんなことをやってみたいと思った時に、それで、皆さんだったらどんなことが、図書館と一緒にできますかのような問いかけもこれからしていかなきゃいけないのかなと考えていたところでした。

○山崎アドバイザー

多分そのバックヤード型職員、組織の構成の問題も入っていますよね。おそらくとても厳しい状況です。今現在の司書数は9名ですかね。新図書館になって5倍入館者数になったときに、9名では支えきれないことは明らかです。

だからといって、大幅にそれを20名、30名に増員することはやはり、30年以上施設を維持していく観点で難しい話になります。ですからできるだけその効率性の高いものを作って、ある部分は今皆さん答えたように、協働しながらやらなければいけないと思います。だからそういうことを設計の中に盛り込んでいく必要がある。つまり、悪い例でいくと階層を5階層にしてしまうとその分カウンターが増えるので職員を置くことができなくなってしまいます。

ですから、やはりできるだけシンプルで職員も利用者も使いやすく、仕事しやすい図書館を作るっていうことは、やはりこの検討委員会の中でも話して欲しいし、それからワークショップの中でそれが意識して欲しいところです。

何百か新しい図書館を見てきていますが、運営が行き詰まってしまう図書館はいくつもありました。新館のときは人員配置されているけど、数年後に行くと人が減

っていて機能低下に陥ってしまいます。長いスパンで見えていただいた上で、住民ができるところ、それから職員がやらなきゃいけないところっていうところをシンプル化する、ICTがやるべきことが、様々な要因で、将来的にこの新しい柴田町の新図書館がずっと維持されて利用が増えていくっていう姿をつくらなきゃいけない。

○玉淵委員

うちも、劇場といってもすごくシンプルな施設です。大ホール、小ホールと練習室で、それ以外の施設はありません。複合施設って今すごく流行っていて、やっぱりその複合施設になるとさっきすごく多くの人数を配置しないといけないらしいです。

ちなみにえずこホールは7人でやっていますが、ソフト事業は500回ぐらいやっています。どうやっているかという、さっき言った仕組みづくりみたいなことが大事です。そのワークショップの中で、地域の方々とどんなことができるのかっていうことを考えながら作ってくっていくことと同時に、さっき言ったようにコンパクトな、すごくシンプルな、でもかつそのシンプルさがゆえに、余白がちょっとあって、人が関われるっていうような、そういう図書館づくりっていうのが、目指すところなのかなと思います。ゾーニングの部分でも、ちょっと見えていろいろ機能が見えてくるのですよね。この機能とか連携というのは、やっぱりとても重要で、他には類を見ないような図書館づくりができるのではないかとかんじています。

○平岡委員長

それでは、委員の皆様から何かここはというのがなければ議事を終了したいと思います。

基本計画についてのスケジュールやワークショップの進め方などについて示しいただきましたので、それで進めていただければというふうに思います。

では、以上で協議事項の方を終了にしたいと思います。委員の皆様方、ご協力いただきましてありがとうございました。

5 連絡事項

事務局より検討委員会のスケジュールについての確認

6 閉会